



しなやか・引いて・良いコンパス

昨日の『未来をはじめ』から。

＊

伊藤穰一さんというアメリカで活躍するオピニオンリーダーの話をしたと思います。MITのメディアラボで活躍するAIをめぐる議論で注目される人物です。その伊藤さんが『9プリンシパルズ～加速する未来で勝ち残るために』というおもしろい本を書いています。伊藤さんはこの本の中で、今後の世界において重要になる9つの原理を挙げています。

ひとつは、これからは「強さ」ではない、「しなやかさ」の時代だということです。これまでは国は軍事力や経済力を強化し、個人もどんどん能力や資格を身につけ、ますます強くならなければと言われてきました。でも、いくら力をつけたところで、人間は必ず失敗をする生き物です。みなさんも、これからの人生で、きっといろいろな失敗をすると思います。

そうだとすれば、「私、失敗しないので」（ドラマ「ドクターX」の主人公のセリフ）もいいですが、やはり失敗することもあるのを認めた上で、それを受け入れ、その経験をどう生かすかが大切ではないでしょうか。ヘーゲルの弁証法ではないですが、これからは強さよりも、失敗から立ち直り、学び成長していくレジリエンス（回復力）が重要だと伊藤さんは強調します。

さらに伊藤さんは、これからは「押す」のではなく、「引く」時代だと言います。かつての社会主義の計画経済ではありませんが、中央がすべての資源と生産手段をコントロールし、上から指示を押しつける時代は過去のものとなりました。自分ですべての情報を集め、すべてをコントロールしようとするほど、空回りしてしまうのが現実です。

ならばむしろ、「押す」のはやめて「引いて」みたらどうだろうか、伊藤さんは提案します。すべてを自分で持ち抱えるのではなく、むしろ必要に応じて、外から引きだしてくる。自分が全部知っていなければならぬと思うとつらいけれど、必要に応じて「弱いつながり」のネットワークから引きだしてくるという生き方もあるわけです。（中略）

伊藤さんはさらに、こんなことを言っています。いまや世界の地図は日々変わっています。完璧な地図がなければ、動けないなんて言っているは何もできません。むしろ必要なのは地図よりも良いコンパスです。先の先までは見通せません。全体を俯瞰する地図もありません。それでもいろいろな曲がり角で、どちらの方向に向かうべきかを示してくれるコンパスがあれば、どれだけ助かるでしょう。もし間違っていたら、また戻ればいだけの話です。（中略）

これまでずっと、政治といえば、みんな一体になって、一つの共同体をつくる。そのためには一つの共通意志、というルソー・モデルで僕たちは民主主義を考えてきました。たぶん、そのような時代は、いまや終わりつつあります。

そのときどきで、好きな人と接続できる「弱いつながり」の柔軟なシステムをつくっていくこと。「強いつながり」だけで物事を判断し、敵か味方か、強いのはどこか、だけを見ていては、世界の動きを捉えることはできません。むしろ、世界の多様な流れに、自分をどう接続していけるか。どのような仲間を見つけて、いかに新たなネットワークを作り出すか。そのための性能の良いコンパスが、大切になってくると思います。